

平成22年 4月 30日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19592456

研究課題名 (和文) メタ認知の発達を支援する臨床学習環境のデザインに関する研究

研究課題名 (英文) The design of clinical learning environments that support the development of metacognition

研究代表者 細田 泰子 (HOSODA YASUKO)

大阪府立大学・看護学部・准教授

研究者番号：00259194

研究代表者の専門分野：看護教育学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：臨床学習環境 メタ認知 教育デザイン 看護実践能力 看護学実習 教育評価
クリティカルシンキング 社会システム

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、メタ認知の発達を支援する臨床学習環境のデザインを探究すべく、臨床学習環境と医療・看護システム、教育・研究システム、情報・管理システム、実践・協働システムといった社会システムに含まれる要素との因果関係を明らかにし、その知見をもとに臨床教育のインストラクショナルデザインに資する形成的評価のシステムを開発することである。

(1) 文献検討・概念枠組みの構築：本研究の概念構造の仮説モデルにおける社会システムに関する概念を文献から抽出する。また、臨床教育の診断的評価、形成的評価、総括的評価の動向を概観し、看護学生のメタ認知の発達に寄与する評価方法を検討する。

(2) 臨床学習環境に関する質問紙調査：概念枠組みに沿って、文献検討をもとに調査票を作成し、看護学生(大学・専門学校)300名、実習指導者(臨床看護師)200名、看護教員(大学・専門学校)100名程度を対象に調査を実施する。臨床学習環境を評価する指標として Clinical Learning Environment Diagnostic Inventory (CLEDI)を使用する。この尺度は看護学生と実習指導者を対象として信頼性・妥当性を検証しているため、対象を看護教員に広げて CLEDI の活用可能性を検証する。看護学生を対象にクリティカルシンキング傾向を測定する California Critical Thinking

Disposition Inventory (CCTDI)を用い、CLEDI との関連を検討する。看護学生、実習指導者、看護教員を対象に、文献から明らかになった概念に関する項目と CLEDI との関連を明らかにする。定量的データは統計学的方法を用いて分析し、定性的データは内容分析を行う。

(3) 臨床学習環境に関するフォーカスグループインタビュー調査：臨床学習環境におけるメタ認知の発達に寄与する評価を検討することを目的に、臨床学習環境の参加者であるステークホルダーによるフォーカスグループ(FG)を構成し、参加者間の相互作用を引き出す FG インタビューガイドを作成し、ガイドに沿って FG インタビューを実施する。FG インタビューで得られたデータは、逐次的にディスコース分析を行う。

(4) 調査結果から明らかになったエビデンスを用いて、メタ認知の発達を支援する臨床学習環境デザインを構築し、臨床教育における評価システムの指針を提供する。

2. 研究の進捗状況

(1) 文献検討をもとに、CLEDI、看護実践力、感情労働、教育・学習活動のメタ認知、クリティカルシンキングの能力や傾向を含めた調査票を作成した。当初の計画では CCTDI の活用を考えていたが、使用する尺度を再検討し、適用範囲の広いクリティカルシンキン

グの態度と傾向を用いた。看護学生(大学 208 名・専門学校 317 名)、看護教員(大学 145 名・専門学校 110 名)、実習指導者 120 名を対象に CLEDI の活用可能性と関連要因を検討した。確認的因子分析を行い、CLEDI の汎用可能性が示唆された。学生と教員で比較し、大学では感覚的 CLE、象徴的 CLE、行動的 CLE で教員が有意に高く、専門学校では有意差を認めなかった。看護学生の CLEDI と看護実践力尺度ではほとんどの下位尺度間で有意な相関を認めたが、クリティカルシンキングの能力や傾向、感情労働、学習活動のメタ認知では一部の下位尺度間で有意な相関を示した。その結果から、臨床学習環境の特性や要因が明らかになった。

(2) 概念モデルにおける看護実践能力の指標として Nurse Competence Scale(NCS) の日本語版を作成し、尺度開発者の協力のもと翻訳妥当性を確認した。日本語版 NCS の内容妥当性を検討し、看護師 214 名を対象に内的整合性と併存的妥当性を確認した。

(3) 看護実践能力の特性を検討するため、NCS と看護過程展開能力との関係について看護師 370 名を対象に分析した。看護過程展開能力の全下位尺度と NCS の援助役割、指導/コーチング、診断機能で中程度の相関を認めた。新人期の看護師 98 名を対象に NCS と一般性セルフ・エフィカシー尺度 (General Self-Efficacy Scale: GSES) との関係进行分析し、GSES の能力の社会的位置づけと NCS の教育/コーチング、援助役割、質の保証、GSES の行動の積極性と NCS の仕事役割で低い相関を認めた。以上の結果より、看護実践能力に関連する特性が示され、臨床教育に有用な基礎的資料を得ることができた。

(4) 臨床学習環境におけるメタ認知的活動を探究するため、看護大学生 4 名、看護教員 4 名、実習指導者 4 名を参加者とし、模擬的風土、探究的風土、習熟的風土について FG インタビューを実施した。データを逐語録に起こし、分析を進めている。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

本研究の当初の計画に沿って、文献検討、概念枠組みの構築を行い、臨床学習環境に関する質問紙調査および FG インタビュー調査を実施した。調査で得られたデータの分析は、多面的に検討しながら進めている。その過程において、当初の計画には予定していなかつ

たが、臨床教育の重要な出力となる概念である看護実践能力の特性を検討している。

4. 今後の研究の推進方策

(1) FG インタビューの多角的な分析を行い、臨床学習環境におけるステークホルダーのメタ認知的活動を探究し、臨床教育に資する形成的評価のシステムを検討する。

(2) 臨床学習環境と看護実践能力の関連を明らかにし、これらに影響する要因を分析する。

(3) 本研究から得られた結果を概念枠組みに照らして総合し、メタ認知の発達を支援する臨床学習環境デザインを構築し、臨床教育における評価システムの指針を提供する。

(4) 本研究の成果を専門分野の学術集会、専門誌、研修・研究会、研究代表者のホームページ等を通して公表し、協力者や関係機関には報告を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 2 件)

① 新瀬朋未、細田泰子、中岡亜希子、片山由加里、新人期の看護師の自己効力とコンピテンスの関連、第 29 回日本看護科学学会学術集会、2009 年 11 月 27 日、幕張メッセ、千葉

② Yasuko Hosoda、Tomomi Shinse、Akiko Nakaoka、Yukari Katayama、Content validity of the Japanese version of the Nurse Competence Scale, The 12th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2009 年 3 月 13 日、St. Luke's College of Nursing, Tokyo

[図書] (計 1 件)

① 松木光子監修、宮地緑、星和美編集、中田智子、藤原千恵子、田中恵子、今坂洋子、細田泰子、牧野裕子、河上智香、金芳堂、看護学臨地実習ハンドブック-基本的考え方とすすめ方- 改訂 4 版、2010 年、38-42

[その他]

研究に関する web ページ

<http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/~hosoday/gaiyou.html>